

ワーキング名

「非常時のネットワーク作りワーキング」

活動期間：4年間（平成30年度から令和3年度まで）

ワーキングからの意見

「非常時に備えた通所系事業所と相談支援事業所の連携強化が必要です」

1 背景

東日本大震災以降、市全体で避難所整備が進むなか、障害児・者は障害種別や障害特性により、それぞれに必要な対応が異なることなどから、福祉避難所の利用方法のほか、避難所までの移動等についても課題があった。一方、障害児・者が通う事業所においても、事業所が休みの時の対応など、不確定なものもあり、不安もあった。このような状況をふまえ、市だけではなく、事業所と連携した対応が必要ではないかとのことから検討するテーマとなった。

2 検討内容

平成30年度から「非常時の地域ネットワーク作り」をテーマに協議し「初動における相談支援事業所と行政との連携」「安否確認者リストの作成」に焦点を絞り協議した。

令和2年度からは、日中の活動場所も加え、テーマを「災害時の通所系事業所との福祉ネットワークの形成と自主避難所について」に変更すると同時に、具体的な内容を検討するため、障害福祉課と通所系事業所で構成したプロジェクトチームでの話し合いを5回実施した。

話し合った内容をもとにワーキングでは、障害のある方はその障害種別や障害特性から通常の避難所を利用することが難しいため、水害時に一時的に待機できる場所を検討した。しかし、同時期に調布市において水害時に複数の福祉避難所や車両で避難できる避難所を開設することになり、併せて避難バスの検討も行われたため、水害時の一時避難所ではなく、福祉ネットワークについて検討した。

今後は、調布市福祉作業所等連絡会を通じて「ちょうふ災害福祉ネットワーク」の参加者を募り、プロジェクトメンバーを中心に活動していくことになった。

3 検討結果（課題）

- (1) 災害時の通所系事業所とのネットワークが希薄である
- (2) 災害時の相談支援事業所との連携が不足している
- (3) 障害児・者における災害時の避難場所や避難方法について、周知が不足している

4 今後の取組

- (1) 「ちょうふ災害福祉ネットワーク」の展開と拡充を図る
- (2) サービス等利用計画と災害時個別避難計画の連動の充実を図る
- (3) 総合防災安全課、障害福祉課と協働し、講演会を企画する